

授 業 科 目 名	音楽と遊び	教 員 名	佐々木 由喜子	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	
科 目 番 号	HY0102	配当年次	1年後期	卒 業 要 件	小幼コース	
単 位 数	2単位				幼保コース	
科 目 目 的	大学が独自に設定する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標 到 達 目 標	<p>(1) 幼児教育、児童教育で使う、子どもの発達に応じた遊び歌を修得する。</p> <p>(2) 絵本読み聞かせの際に適切な音や音楽をつけて演じることができるようにする。</p> <p>(3) パネルシアターやエプロンシアターを演じることができるようにする。</p> <p>(4) ピアノを弾きながら指導する基礎的な能力を培う。</p> <p>(5) 幼児教育や児童教育で使う打楽器等の楽器や教材を活用した指導ができるようになる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>本授業では、子どもの発達に応じた目的にあった様々な音楽活動を実践し、音や音楽を五感で感じる中で、それらが幼児の心身の発達に関係することを学ぶ。また、発達に合った遊びを学生自らがアクティブラーニングとしてグループ活動で展開しながら、子どもの主体的な表現を促す手法を習得する。さらにその表現に必要なコード理論、音楽理論、幼児の発達についての知識を修得し、0歳から6歳までのこどもの心身の発達の一助となる音楽遊びについての様々な知識と技能を体得する。幼児教育でのICT教育機器等の活用について理解する。</p>					
ディプロマ・ポ リシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授 業 計 画	<p>第1回：オリエンテーション 到達目標を視聴覚教材、指導者の手遊び歌・パネルシアターなどの実演によって明確にする。 0歳から6歳までの子どもの発達の学習について見通しを立てる。（目標(1)）</p> <p>第2回：子どもの発達と音楽 0歳から1歳までの子どもの発達を授業外に調べ、視聴覚教材で子どもの音楽遊びを視聴し、基礎的な知識を得る。子どもの発達にあった遊び歌の演習を行う。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第3回：手あそびの実際① 2歳までの子どもの発達に合ったあそびうたを演習して、保育者とのふれあい遊びの表現法を学ぶ。コードによるごく簡単な伴奏法を学習する。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第4回：手あそびの実際② 3歳以上の子どもの発達に合ったあそびうたを演習して、保育者とのふれあい遊びの表現法を学ぶ。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第5回：保育に使う楽器の奏法① 大太鼓、小太鼓、すず・たいこ・カスタネット・タンブリン等の奏法を理解し、子どもの歌にどのように使用するか演習する。また、声だけでなく、打楽器によってさまざまな事象を表現できることを、ともに遊ぶことを通して学習する。（目標(1), (3), (4), (5)）</p> <p>第6回：保育に使う楽器の奏法② 子どもの歌の表現力を高める様々な教育打楽器を使った遊びを考えて作り、グループ発表する。（目標(1), (3), (4), (5)）</p> <p>第7回：第1回実技試験 第6回までに実施した遊び歌の実技試験を実施する。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第8回：楽器の演奏① 身体の動きや様々な素材と音との関係を知り、楽器による即興演奏で、音によるコミュニケー</p>					

	<p>ションを体験する。(目標(1),(5))</p> <p>第9回：楽器の演奏② これまでで修得したコード理論を使い、様々な素材や楽器を加えた即興的な合奏を考え、グループによる合奏の発表を行う。(目標(1),(2),(4),(5))</p> <p>第10回：絵本の音付け① 教師による音付きの絵本よみかかせの実演を鑑賞したのち、学生が選んだ絵本により、ピアノや打楽器による効果音付の絵本読み聞かせの演習を実施する。(目標(1),(2),(4),(5))</p> <p>第11回：絵本の音付け② これまでで学んだコードによる伴奏法、音つけの技法、あそびうたを総合的に盛り込んだ絵本読み聞かせをグループで発表する。(目標(1),(2),(4),(5))</p> <p>第12回：グループによるあそび指導① これまでで学んだコードによる伴奏法、音つけの技法を総合的に活用した音楽遊びをグループで発表する。(目標(1),(2),(3),(4),(5))</p> <p>第13回：グループによるあそび指導② これまでで学んだ様々な技法を総合的に活用した音楽遊びをグループで発表する。(目標(1),(2),(3),(4),(5))</p> <p>第14回：グループによるあそび指導③ これまでで学んだ様々な技法を総合的に活用した音楽遊びをグループで発表し評価しあう。(目標(1),(2),(3),(4),(5))</p> <p>第15回：第2回実技試験 本講義で学んだ遊び歌を、保育現場を想定して演じる。(目標(1),(2),(3),(4),(5))</p> <p>定期試験：子どもの発達と音楽あそびについての筆記試験を実施する。</p>
学生に対する評価	<p>定期試験30%・グループ発表30%・遊び歌の表現30%・課題レポート10%により評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回、指導者より出された課題をしっかりと練習し、次回の発表に備える。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに何を練習するかを確認する。</p>
テキスト	<p>『こどもの歌ベストテン』（ドレミ楽譜出版社）</p> <p>『改訂幼児のための音楽教育』（教育芸術社）</p> <p>『新たなしい子どものうたあそび』（同文書院）</p>
参考書・参考資料等	<p>『幼稚園教育要領（平成29年告示）』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』</p> <p>『保育所保育指針（平成29年告示）』</p>
担当者からのメッセージ	動きやすい服装で参加すること。
オフィスアワー	授業以外の空時間に実施（メール等でアポイントを取ること。）